



■ めざすビジョン

【二輪草学びのエリア：赤塚第三中、赤塚小、赤塚新町小、紅梅小、下赤塚小めざす児童・生徒像】

- 【自立】自分で正しく判断し、チャレンジする児童・生徒
- 【貢献】笑顔でみんなのために働ける児童・生徒
- 【共生】思いやりをもってともに励ます児童・生徒
- 【創造】課題を見出し、解決して実践する児童・生徒



【教育目標】

- 「考える子ども」 ・よく考え自ら学習する子 ・正しく判断し進んで行動する子
- 「明るい子ども」 ・思いやりの心もち協力する子 ・素直な心もち礼儀正しい子
- 「強い子ども」 ・丈夫な体で楽しく運動する子 ・根気強く最後までやり抜く子

【めざす学校像】

『安心・安全で笑顔あふれる幸せな学校』

『ONE チーム下赤として、児童・教職員・保護者・地域が自分事として共に創り上げていく学校』

【基本理念】「教育は人が幸せに生きるためにある」「子どもを真ん中に据えた教育」を展開。学ぶ喜び、成長する喜び、人とつながる喜びを感じられる教育活動を推進。

1 「考える子ども」の育成（知）

■ 確かな学力の育成と「MIRAI SCHOOL いたばし」の具現化（知）

- 「板橋区授業スタンダード」「板橋区授業スタンダードS」の推進
基礎・基本の習得率を把握と学習内容の定着を図るための時間を確保。Self や Select のある学習活動の積極的導入。一人一台端末を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善。

● NIEによる「読み解く力」の育成

これまでのNIEの成果を核とし、継続実施。
週2回の「NIEタイム」の実施による、社会に対する広い視野や多様な考え方の育成。

● 保幼小接続・小中一貫教育の推進

学びのエリアにおける小・小連携ならびに小・中連携による総合的な学習の時間を中心とした探究的な学習の充実。6年生の「日光ラボ」による3つ目のS=Shareの拡大、充実。スタートカリキュラムの編成や学校への招待。保育園や幼稚園での学びや経験をつなぎ、円滑な適応への実践。

● 郷土愛の育成

赤塚植物園・郷土資料館・美術館等を活用し郷土愛を育む学習を実施。
4～6年生の「下赤ラボ」（個の探究、異学年班編成）の計画的実施。「地域のよさを語る子」の育成。

● 表現機会の充実と指導体制の工夫

日々の授業で自分の考えを書き、伝え合う活動を意図的に設定。教科担任制（3～6年）や交換授業（1～2年）を継続実施し、多くの目で子どもを見取る指導体制を構築。

校内研究 研究主題『健康で活力に満ちた児童の育成』
～体育・健康・食に関する学びの向上を目指して～

2 「明るい子ども」「強い子ども」の育成（徳・体）

■【明るい子ども】人間性と社会性の醸成（徳）

★対話で心をつなぐ合言葉「つみき」★
つ（伝える） み（認め合う） き（気付く、築き上げる）
つなげる

● いじめ・不登校への即時・組織的対応

各種委員会等で即時共有。「報連相報報（経過・結果報告）」と記録を徹底。複数での丁寧な聞き取りによる事実確認と、SC・SSW等の専門人材との緊密な連携。

● 誰一人取り残さない居場所「いい場所」

安心・安全に学べる居場所の充実。一人一台端末で学びを止めない仕組みを構築。

● 特別の教科 道徳と特別活動を両輪とする学級経営

いじめ防止授業を年3回実施。「徳を積む」行動の日常化やなかよし班等の異学年交流を活性化。児童が主体的に、自分たちの学校を自分たちでよりよく、楽しくする取組の充実。

● あいさつの励行

「いつでも、どこでも、だれとでも」「語先後礼」（言葉を先に、礼は後）

■【強い子ども】健康で活力に満ちた児童の育成（体）

● 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づく体育・健康教育の推進

体育、保健・食育を柱に指導の個別化、学習の個性化を中心に校内研究を展開。年間6本の研究授業で効果検証。

● 新しい視点による食育と給食の可能性追求

栄養職員と協働し「食・食で・食に・食と」学ぶ新しい食育を展開。

● 外部人材と連携した保健指導

保健学習と保健指導の充実を図り、これまでの自分との出会いを通して健康への意識を高める学習を展開。

3 特別支援教育・人権教育・多様な教育的ニーズの対応

充実した組織的支援と心のバリアフリー

- 組織的・計画的支援：特別支援校内委員会を定期開催し、SC・SSWと情報を共有。
- 心のバリアフリー：人権教育プログラムを活用した障がい者理解等の指導や体験活動を通した共生社会の理解。
- 教員研修の強化：巡回心理士やSC等による研修で教職員の人権感覚・児童理解を深化。
- 多様な教育的ニーズの対応：学びを止めない環境づくり、インクルーシブな教育環境の実現。

4 教職員の働き方改革

心身ともに健康で、働きやすさと働きがいと両立した職場環境、体制づくり、学校以外が担うべき業務の分担・協働・移行→負担軽減→教育に専念→教育の質の向上を図る

- 会議の効率化：C4thやクラスルームによる確実な情報共有を通し、会議の時間短縮や回数削減を図る。
- メリハリある勤務：週1回定時退勤日、ハッピーアフタヌーン（有休推進）設定で、年次有給休暇取得を年間12～15日以上目標。
- 教材研究時間の短縮：教材の電子共有、デジタル教材等の活用、教科担任制や交換授業の充実。
- 地域ボランティア導入：給食・保健室・学習補助・行事等のボランティア増員と連携で業務軽減。

5 家庭・地域・外部との連携・協働

学校・家庭・地域が三位一体となった教育体制の確立

- iCS委員会・学校支援地域本部を両輪とし、PTA、おやじの会等地域と連携：情報共有、学校行事等への支援。
- タイムリーな情報発信：学校HPの定期更新や学校日記に加え、クラスルームによる配信を実施。
- 生活習慣改善の共有：クラスルーム等を通じて保健だより、給食だより等の役立つ情報を提供。
- 地域や外部人材からの本物の学び：専門分野の方からの学びを通して、本物と向き合い、学びを広げ、深め、つなげる活動の推進。

6 チーム力・ブランド力の強化

「ONE チーム下赤」での誇りある組織形成と価値創出

- 授業を通じた独自ブランド：「再現性・汎用性・多様性」のある授業展開。キーワード『その手があったか!』『おもしろそう!』
- 学校行事の充実：学校行事を通して、主体性や協調性、社会性、思いやり、自己肯定感等を育成。
- しもあかソウルフードプロジェクト：特色ある栽培活動を通し、自然と向き合うことや食べ物の尊さを体感。
- 若手教員の育成：チーム一丸となって若手を育成し、職員全員が下赤塚小に誇りをもてる組織へ。教職員個々と組織力の強化。